
健全な俺と変態女

魔理沙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

健全な俺と変態女

【Nコード】

N9352S

【作者名】

魔理沙

【あらすじ】

普通の高校生といえなくなってしまった？

あの変態女のせいだ！

これは高校生男子の非日常的なストーリー

俺の毎日が…

「あーつまんねえ。」

俺は木村健太。

名前も普通だし、目立つ男ではない。

だからといって目立ちたくもない普通の高校生だ。

「健ちゃん！」

手をふりながらこっちへ走ってくるあいつは…

瀧川拓也。俺とは正反対の目立ちたがり屋。

なぜ一緒にいるのかって？

俺が聞きたいくらいだ…

「健ちゃん、おっはよー！」

「朝っぱらから声でけーよ。」

「そんなに怒ってたらモテないぞ！」

「うぜえ…」

といいつつもこいつはモテる。

顔も良いほうだと思う。

そんなことをいつも俺は思っている。

変態じゃないかって？

俺は健全だぞ！

そんなこんなでいつも一日が終わる。

拓也が部活なので一人で帰っていると

前の方に人が倒れていた。

「え？大丈夫ですか？」

俺と同じ歳くらいの女の子だった。

俺がかけよると

「ん…？」

といって目をひらいた。

「あの…大丈夫ですか？」

「ううん…」

「え？どこか痛いですか？」

「ううん。抱きしめてくれたら治るかもっ」

なっ何を言い出す、この女…

いや俺の聞き間違いか…

耳鼻科…予約しようか…

「えと…今なんて？」

「もう！何度もいわせないでよね！

抱きしめてって言うてるのよ！」

あっ…耳鼻科とりけしです。

「はあー…女の子を責めにまわす気？」

「えっいやいや責めっていうか…あんた誰？」

「あっそういうことなのね！」

名前を聞かないと抱きしめられないと…？

これは失礼しましたっ あたしは白河美亜！

みーちゃんって呼んでねっ（＾＾）」

「…。」

とんでもない変態女だ…
今すぐ立ち去るべきだろう…

「あつ俺…今から塾なんで…」
「じゃあ美亜も行く！」

っ
……

うぜえ…

「うーん…」
ガバッ

俺はびつくりして起きた。

「夢か…」
ほっとため息をつく

「ん？何の夢みてたの？」

ええー！ー！ー！ー！
ええー！ー！ー！ー！
うん夢だ…
俺は布団にもぐりこむ…。

「ちょっと！もう一回寝るの？」

あー俺もついやだああ

こうして俺は平凡な毎日と
サヨナラすることになったのだ。

あの女をつれだして…

俺はあのあとまた気絶したらしい
どういいういきさつかあの女が居座ってる
一つ言えることは俺の人生は今日
180°かわっちまった

「ちょっと！早くおきなさいよ！」

「ん…まだ6：00じゃねーか」

つて…いや

おかしいよな…幻覚だよな
うん、そうだ

下着なわけがない！

「あの…俺が頭イカれた変態野郎だと思っ
たらいつでもぶつとばしてくれ…
それで…あの…聞くがお前は今服きてるか？」

俺は一応後ろをむいておいた

「うん」

「だよなー…」

俺は安心してむくとやはりあいつは下着だった

「おっおい！下着じゃねーかよ！」

「下着も服じゃない！」

やっぱりこの女イカれてる。

一度病院につれていくべきだろう。

「で！あたしもあんたにいいたいことがあるの！」

「なんだよ。」

「なんで昨日から下着なのに襲ってこないのよ？」

あーまた意味不明なことを…

「おれ昨日気絶してただろ？」

お前もみてたじゃねーか。」

「え？気絶したフリして襲おうとしたんじゃないの？」

ぶっ…

どんな思考回路してんだ、こいつは。

「つーかもうこんな時間だ」

「あ…そっか！学校か！」

こいつは今日から俺の通っている

佐渡山高校に転入する

あいつがなぜあそこにいたとか

親はどこにいるんだとか聞きたかったが

急いでいるので後で聞こうと思った

高校には前から連絡していたらしい

「職員室に案内して！」

「はいはい。」

「ここだよ。おれHRはじまるからもう行くわ」

「みんな席につけ！今日は転校生がいる。」

ガチャ

「白河美亜です。よろしくお願いします。」

ちょーかわいくね？

かわいー！

とか聞こえるがどこが…とおもっている…

「健ちゃん！あの子かわいくない？」

となりの席の拓也がささやく

「そこ！ちゃんと聞いているのか？」

「へーい」

あいかわらず拓也は呑気だ。

先生に俺達が注意したとき

あいつは俺の方を見て笑った気がしたが
きのせいだろう

学校では知らないフリをしろと
さんざんいったし大丈夫だろう

一般的に美少女といわれるような女と
なにか関係があつてそして同居なんて
バレたらやばいことになる。

そうおもっている

あの女がこっちに向かって歩きだした。

「おい。白河、どうした？」

みんなの視線があいつを追う。

「健ちゃん。」

そう声が聞こえると息ができなくなった

みんなが

びっくりした顔で俺を見る。

俺はこの状況を理解するのに時間はかからなかった。

そう…俺はキスされたのだ
この変態女に。

非日常の幕開け

俺は何がおこったのかすぐには理解できなかった

周りのやつらは目をみひらき、俺をただ呆然とみつめていた。

あの拓也でさえも口を金魚みたいにパクパクさせ驚きをかくせないようだ。

俺も理解ができず、2Dの教室は不気味に静かだった。

しかし一人だけニコニコしながらおれをみつめているやつがいた。そうだ。あの変態女だ。

「健ちゃんっ？あたしのちゅうどうだったあ？」

そうか…

俺は今やっと理解したのだ。

俺は…

俺はこの女にキスされたのだ。

初めてのキスを

クラスメイトのやつらの静まりがとけ今度はさわぎだした

ええ？あいつあんな彼女いたんだあ

俺はただ平凡な日常が送ることができればよかったのに
どうしてこんなことになったんだろう。

俺は回りの空気にたえられず、教室をぬけだした。

後ろからは生徒のざわめき、注意する先生の声、
そして俺の名前をよびつづける拓也の声。

俺はその教室をあとにして、屋上へむかった。

何時間すぎただろう

拓也がきた。

「健ちゃん。ここにいたのか」

「ああ」

俺は拓也の顔をみないで答えた。

沈黙が続く…

拓也との間に沈黙が続くなんて初めてだ

きまずくなり俺は切りだす

「あの女の事きかないのか？」

「聞いても俺には理解できそうにないよ」

「…………。そうか。」

「でも健ちゃんの親友として聞いておこうかな?」

何分かったか…

おれは全ての出来事をはなした

「そうなんだ。」

「ああ…。おどろかないのか?」

「俺は歩くハプニングだぜ? そんなことで驚かねーよっで? これからどうすんだ?」

「なんもかんがえてねえ。だがあいつに俺と会おう前になにがあったのか」

まだなんにもしんねえ。なんかほっとけねえんだよな…」

「そっか…健ちゃんは昔っから優しいなあなのになんでモテないんだろ?」

「余計なお世話だ!」

屋上にはいつもの俺らの笑い声が響く。

俺は決意したんだ
あの女から逃げないって。

俺と修学旅行

ピピピピピ

俺は毎日目覚ましの音で朝を迎える。

もぞもぞ…

あいつはまだ俺のベッドの中で寝ている。

もう驚きやしない。

あいつと出会ってから一週間……

俺のファーストキスを奪った女……かあ。

でもほんと可愛い顔してんなあ……

俺はこの女とキスを……

じーっ

あぶっ俺今キスしようとしてしまった。

こいつにキスされてから俺は妙に意識してしまつようになった。

好きとか……

ないない（（・ー・・））

先学校いっとくぜ

俺はそうつぶやき家をでた。

キンコーンカーンコーン

「HR始めるから席につけー」

先生が教壇にたつ

委員長前に出てこい

「なんだなんだあー」

委員長の拓也は大きな声で言う。

「先生もしかして修学旅行ですか？」

もう一人の委員長の崎本　ありが静かに言う。

崎本さんはクラス一の美少女で成績優秀だが少し冷たいので
男子は絡みづらいらしい。

だが拓也だけはいつも崎本さんに話しかける。

だからお似合いだよなーとクラスで密かに噂されているのだ。

「そうだ。委員長を中心に修学旅行のしおりづくりを頼んだゾ」

「わかりました」

「うーい」

「そついや美亜ちゃんいなくね？」

そつえばどうしたんだろ…

俺と修学旅行（後書き）

まだこの話4話は執筆中です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9352s/>

健全な俺と変態女

2011年10月9日01時40分発行